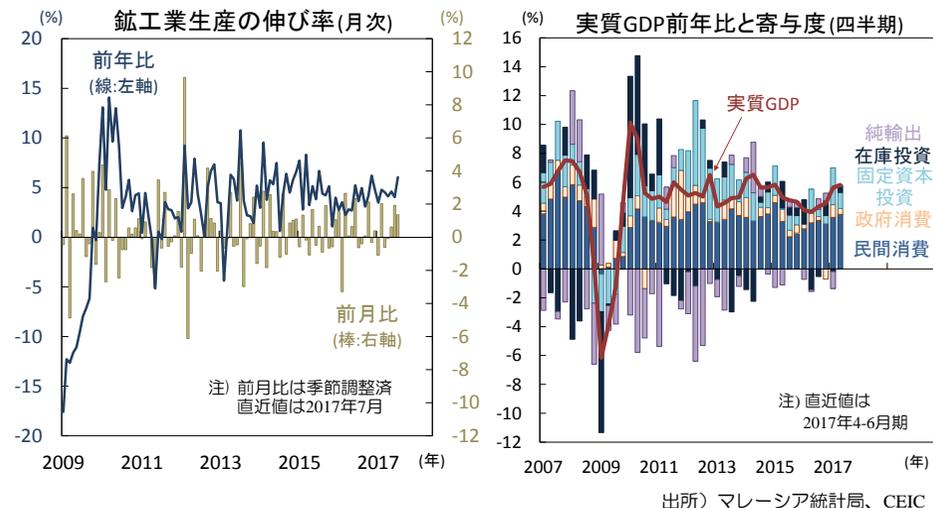


## マレーシア: 堅調に拡大する景気は今後もリング相場を支えるのか

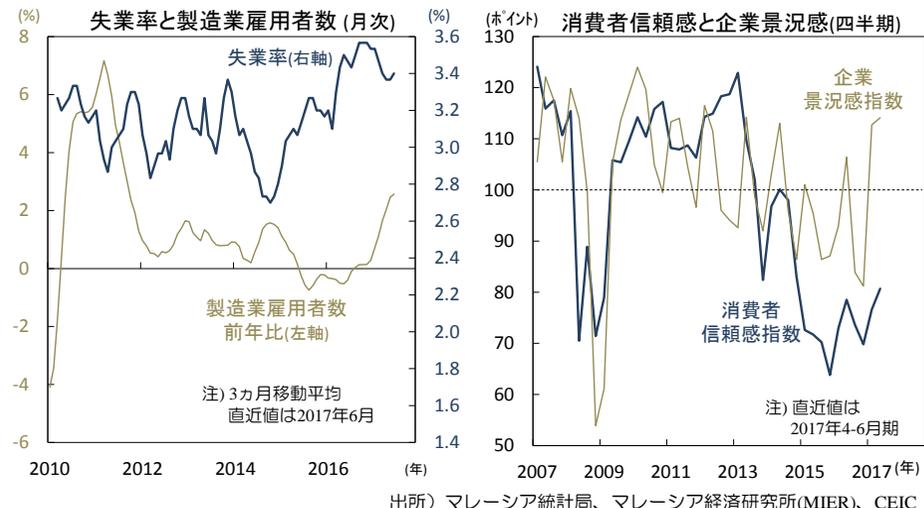
【図1】 堅調な鉱工業生産(左)、GDP成長率は4期連続で加速(右)



先週11日、マレーシア政府は7月の鉱工業生産が前年比+6.1%と前月の+4.0%より加速し市場予想(Bloomberg集計の中央値)の+5.1%を上回ったことを公表。季節調整済の前月比も+1.4%と前月の+1.9%より鈍化しつつ、堅調な伸びとなりました(図1左)。なお、今年の断食明け大祭(レバラン)は6月末と前年の7月初より早まり、前年に比べ6月の営業日が減り7月が増加。7月の加速の一部はこの影響です。もっとも、6-7月平均の鉱工業生産は前年比+5.0%と5月の+4.6%より加速しており、上記の影響を除いても足元の生産は堅調です。7月の生産を部門別に見ると、製造業が同+8.0%と前月の+4.7%より急伸。運輸機器(同+6.8%)や食品(同+19.1%)が伸びており、好調な民間消費が背景とみられます。輸出の伸びにけん引されて電器・電子も同+10.5%と堅調に伸びました。

景気は昨年まで2年連続で鈍化したものの、年初より内外需にけん引され力強く拡大しています。8月18日公表の4-6月期の実質GDPは前年比+5.8%と前期の+5.6%より加速し、季節調整済みの前期比年率は+5.2%と前期の+7.5%より低下しつつ堅調でした。

【図2】 雇用環境の改善(左)とともに消費者信頼感も回復(右)



4-6月期の実質GDPの需要側では、外需の伸びと在庫投資の寄与が成長率を押し上げました(図1右)。政府消費と固定資本投資が鈍化したものの民間消費が加速したため、内需(在庫投資を除く)も前年比+5.7%と前期の+7.7%より鈍化しつつ堅調でした。

民間消費は前年比+7.1%と前期の+6.6%より加速。雇用状況の改善(図2左)や賃金の伸びとともに消費者信頼感も回復し(図2右)、同消費を押し上げました。政府消費は同+3.3%と前期の+7.5%より減速しました。固定資本投資は同+4.1%と前期の+10.0%より鈍化。民間投資が同+7.4%と前期の+12.9%より鈍化し、公的投資も▲5.0%と前期の+3.2%より反落、政府投資が伸びたものの、国有企業の投資が落込んだ影響です。分野別では建設投資が加速した一方で、設備投資が減速しました。在庫投資の寄与度は+0.4%ポイントと前期の▲0.2%ポイントから反発しました。外需では、総輸出が同+9.6%と前期の+9.8%より鈍化しつつ好調。半導体やパーム油や金属製品の伸びにより。総輸入も同+10.7%と前期の+12.9%より鈍化しつつ高い伸びを維持しました。

## ● 堅調な内外需の伸びが製造業とサービス部門を支援

固定資本投資が鈍化するとともに資本財輸入の勢いが緩んだことが、4-6月期の実質総輸入の鈍化の背景とみられます。この結果、純輸出の寄与度は+0.1%ポイントと前期の▲1.2%ポイントより反転し、GDP成長率を押し上げました(図1右)。

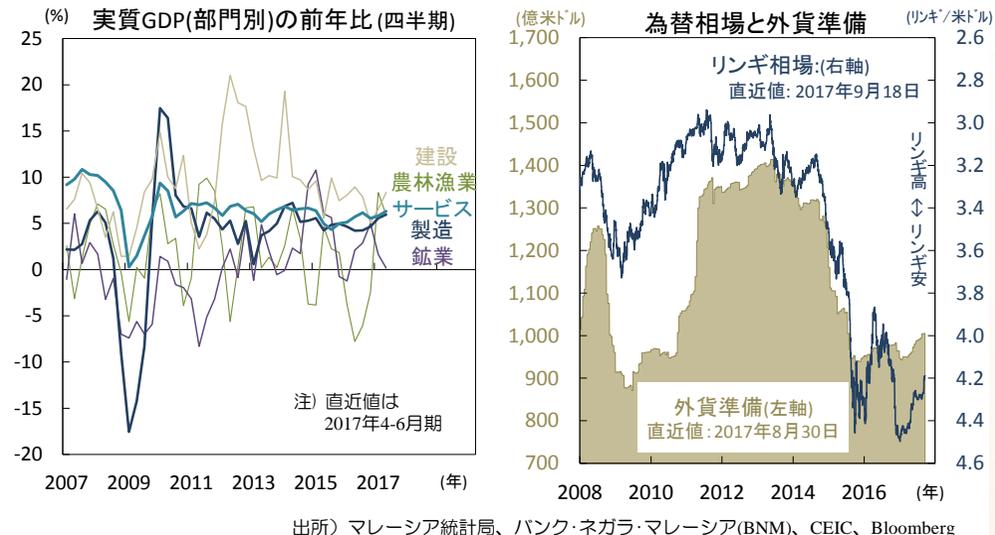
生産側では、輸出や民間消費にけん引され、製造業とサービス部門が加速しました(図3左)。農林漁業は同+5.9%と前期の+8.3%より低下しつつ堅調。前年の雨不足の影響から回復した油やしと天然ゴムが+12.1%と+17.0%と前期より鈍化しつつ好調でした。鉱業は同+0.2%と前期の+1.6%より鈍化。産油国の合意に基づく減産と主要ガス田の生産停止(保守点検)の影響です。製造業は同+6.0%と前期の+5.6%より加速。半導体需要の伸びから電気・電子が同+9.8%と前期の+7.9%より加速し、好調な民間消費にけん引され加工食品も+10.4%と伸張、建設投資の伸びに伴って金属など建材も加速しました。建設業は同+8.3%と前期の+6.5%より加速。運輸や発電関連の土木建設の伸びによります。サービス部門は同+6.3%と前期の+5.8%より加速。好調な民間消費にけん引され卸売・小売が加速し、輸出の伸びや航空旅客数の増加に伴って運輸・倉庫も堅調に伸び、好調な金融市場を背景に金融も伸びるなど幅広い業種が加速しました。

## ● 4月初より堅調な上昇を続けるリンギ相場

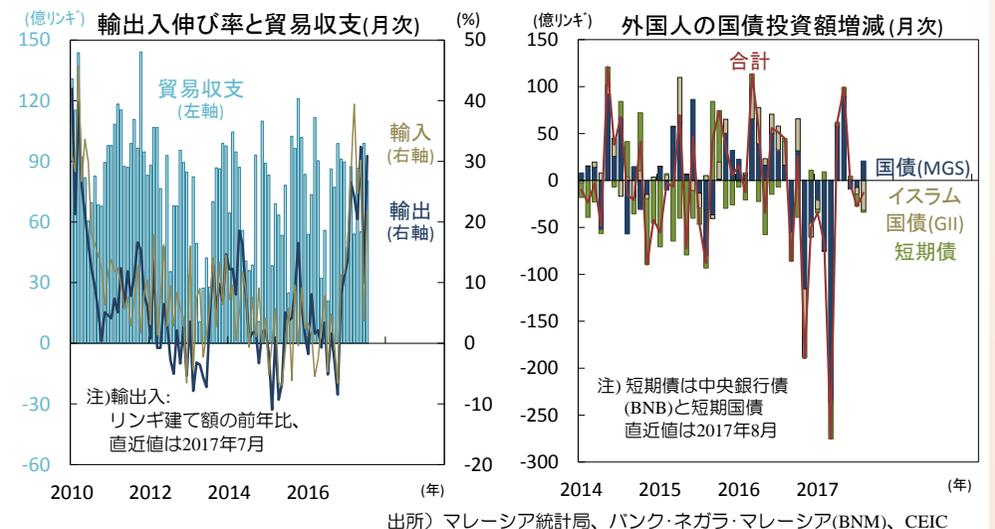
景気は今年上期に急加速した反動から下期にかけてやや鈍化するであろうものの、7月の鉱工業生産を見る限り、底堅い拡大を続ける見込みです。輸出は堅調な伸びが予想される一方で好調な内需に伴って輸入の伸びも高く、純輸出の寄与は低下するとみられます。一方、来年の総選挙を控えて政府が移転支出等を積み増す中で民間消費は底堅く伸び、堅調な輸出を背景に民間部門の設備投資も拡大を続けるでしょう。今年通年の成長率は+5%前半と、昨年の+4.2%より回復すると予想されます。

通貨リンギは4月初より今週18日にかけて対米ドルで+5.7%と主要アジア通貨最大の上昇率(図3右)。世界景気の回復に伴う輸出の伸びと景気の拡大、底堅い一次産品価格などが同通貨を支えています。昨年11月の海外為替先物(NDF)規制の強化が嫌気され今年3月にかけて債券投資資本が流出したものの(図4左)、今年4月の国内先物規制の緩和等が好感され債券投資資本流入が回復(アジア・マーケット・マンズリー6月号参照)。3月までの相場低迷による通貨の割安感、相対的に低水準の外貨準備を増強するためにドル買い介入を行いつつも緩やかなリンギ高を容認する中央銀行の姿勢も同通貨を支援しています。リンギ相場は今後も堅調に推移すると予想されます。(入村)

## 【図3】 製造業とサービス部門が加速(左)、堅調なリンギ相場(右)



## 【図4】 今年3月にかけて加速した債券投資資本の流出は一巡(右)



### ・本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号  
加入協会：一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会